



文部科学省委託事業

文部科学省



スポーツ ボランティア・ 運営ガイドブック

スポーツイベントのボランティアを知る

「スポーツボランティア」と一言で言っても
活動内容、ジャンルは様々です。
本書では多くのボランティア活動の中でも
「スポーツイベント」のボランティアについて紹介します。

スポーツボランティア・運営ガイドブック

contents

そもそも	スポーツボランティアって何?	3
なぜ	スポーツイベントではボランティアが必要?	4
具体的に	募集から活動終了までスポーツイベントでの ボランティア運営の流れを見てください	6
さらに	ボランティアやボランティア・リーダーの 養成にも目を向けましょう	12
ゴールは	ボランティアのリピーターを増やすこと	16
イベント主催者 のための	スポーツボランティア Q&A ～スポーツイベントを成功させるために～ イベント主催者は意識改革が必要です	20 22
ボランティア のための	スポーツボランティア Q&A	24
主催者・ ボランティアの声	イベント主催者やボランティアの気持ちや 体験談を伺いました	26

そもそも **スポーツ
ボランティアって何?**

スポーツボランティアとは
「スポーツイベントの運営」や様々な
「地域のスポーツ活動の現場」で活躍している
ボランティアのことです。
イベントの運営には多くの人手が必要となるため
ボランティアの活動内容は多岐にわたります。



例えば

テレビ中継されるようなマラソン大会などの **イベントボランティア**

- 国際的・全国的なスポーツイベントの運営を支えているボランティア
- 地域の市民マラソン大会や町民運動会をお手伝いしているボランティア
- 地域のスポーツ施設で行われるスポーツ教室をサポートするボランティア など

少年野球、サッカーなどの **地域のスポーツ活動の現場**

- 地域の子供たちのスポーツ指導を行っているボランティア
- 地域のスポーツ組織・団体の運営(役員や経理、送迎担当など)のボランティア
- Jリーグやプロ野球、バスケットボールなどのトップチームの試合運営等で活動するボランティア など

MEMO

地域のスポーツ行事などで、無償又は実費程度で、会場の準備や撤収を行ったり、受付や案内、飲料の準備をすること。自身やお子さんが所属するスポーツ団体やクラブ等で、練習や大会時に他の方も含めて送迎を行ったり、指導や審判の補助をしたり、役員や会計係として会の運営に関わることも、重要な「スポーツボランティア活動」なのです。



なぜ

スポーツイベントでは ボランティアが必要?

スポーツイベントの運営には
多くの時間と人手がかかります。
そのため、スポーツボランティアは主催者とともに
スポーツイベントを創り上げる、欠かせない存在になっています。
ボランティアの人たちも「イベントを盛り上げたい」
「参加者に喜んでもらいたい」という
素直な気持ちで活動しています。
主催者側は、ボランティアの存在を自らと同様に
スポーツイベントを成功に導く
「縁の下の力持ち」と考えましょう。



MEMO

国内の主なスポーツイベントでのボランティア参加人数



スポーツイベントで活動している人たち

子供から大人まで、老若男女、様々な人々が活動しています。
親子で、夫婦で、仲間と。
障害のある人もない人も活動しています。
視覚障害者ランナーの伴走というボランティアもあります。



STEP 3 募集の時期や方法を知っておきましょう

イベント開催当日に向けて効果的な募集の時期や方法などがあります。スポーツイベントの規模によっても様々です。

募集の時期

ボランティア募集人数が100人未満のスポーツイベントでは、**2か月前に募集を開始し1か月前で締め切る**例のほか、**1か月前に募集を開始し3日前で締め切る**など、直前まで募集している例も見られます。

ボランティア募集人数が100人以上の規模になると、おおむね**募集開始が半年前で2か月～3か月前で募集が締め切られます**。

イベントの規模の大小にかかわらず「**定員先着順**」と明記して、早期申込みを促す工夫も行われています。

また、ボランティアの種類で締切日を変えている例もあり、**ボランティア希望者は2か月前の締切りに対し、ボランティア・リーダー希望者は、早めの3か月前**としているイベントもあります。

ちなみに、東京マラソンは、約3か月前に募集を開始しますが、2015年大会は2日間で定員の10,000人に達しています。

募集の方法

最もよく行われている募集の方法は、イベント主催者の「**ウェブサイトでの告知**」で、次が「**関係者による口コミ**」です。地方公共団体の広報誌での告知や募集チラシの配布・掲示などの方法とともに、最近ではFacebookやLINEなどの**SNS**も活用されています。

規模の小さなスポーツイベントでは、関連のある組織・団体の会員などへメールで告知をしたり、口コミで案内することが多いですが、その他自治会の回覧板での案内、地域の情報誌やケーブルテレビ、コミュニティFMなど**地域のマスメディア**の活用も効果的です。

STEP 4 活動を始める前に

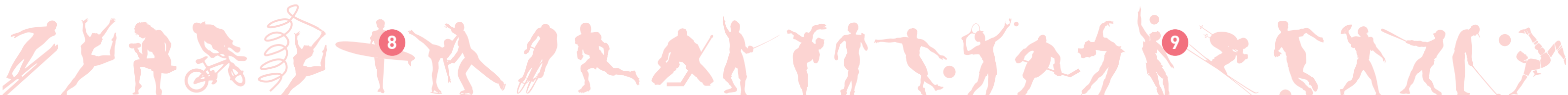
ボランティアの募集を行い、ボランティア参加者が決定したら活動場所（配置）などを主催者からボランティアにあらかじめ連絡する必要があります。

その際、併せてイベントの概要や、具体的な活動内容を記した「マニュアル」を配布し、可能であれば、事前に活動説明会を開催しましょう。

国民体育大会や東京マラソンなど、募集締切りから活動当日まで期間が空くイベントの場合には、定期的にFacebookを更新したり、メールニュースを送るなど、ボランティア参加者の関心が薄れないように工夫しています。



東京マラソン「初心者のためのボランティア活動セミナー」



STEP 5 いよいよ活動当日です!

当日はどんなスポーツシーンに関われるのか!
ボランティアは期待と不安を抱いて集まってきます。
では、当日の流れを見てみましょう。

- 1 ボランティア受付**

難しい活動ではないので、ボランティア(早く会場に来たボランティア、若しくは同イベントでのボランティア経験者)にボランティア受付をお願いすることも可能です。
- 2 ボランティアミーティング**

イベント主催者から、ボランティアに挨拶を行います。その後、活動の内容や注意点などを確認し、活動開始後の休憩や昼食などのタイミングを伝えます。同じ場所で活動するボランティア同士の顔合わせもここでを行います。
- 3 活動の準備**

ボランティアはリーダー等とともに活動場所へ移動し、活動の準備を始めます。
- 4 活動開始**

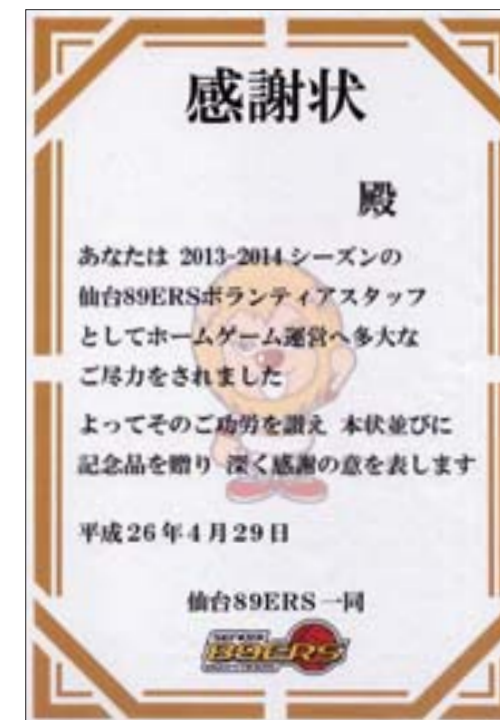
イベントがスタート。イベント開始後は、主催者やリーダーが活動中のボランティアの様子を確認し、困っていないか声掛けをするようにしましょう。
- 5 活動終了・片付け**

活動終了後は、イベント主催者とボランティアの両方で片付けや活動場所のゴミ拾いを行います。
- 6 ボランティアの解散**

イベント主催者から、当日のイベントの状況や結果について報告(参加者数、記録など)を行います。その際、必ずボランティアに感謝の意を表しましょう。

STEP 6 アフターケアも含めて活動が終了します

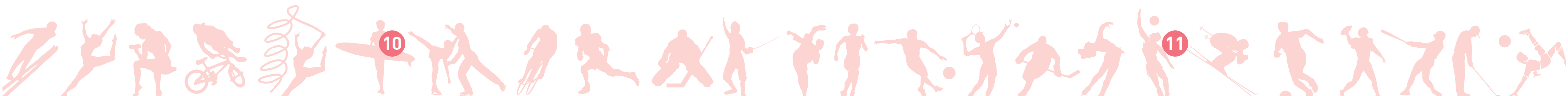
活動が終了したら、後日ボランティアに対して「お礼のメール」や「感謝状」、「サンキューカード」などを送り、改めて感謝の意を表しましょう。
高校生や大学生などからは、学校の単位認定等のために「ボランティア活動認定証」の発行を求められる場合があるので、できるだけ速やかに対応しましょう。
参加してくれたボランティアにアンケートをしたり、反省会を開くなど、次回開催に向けての課題や改善点を把握することも大切です。



感謝状: 仙台89ERS



感謝状: 東京マラソン2015 サンキューカード



さらに

ボランティアや ボランティア・リーダーの 養成にも目を向けましょう

スポーツボランティアは
活動を終えたら終了…というわけではありません。
長期的な期間で今後の展開を踏まえ、
ボランティアやボランティア・リーダーを
養成することが大変重要になります。
その事例を紹介します。

事例 1 スポーツボランティア研修会

スポーツボランティアの基礎を学ぶ

事例 2 スポーツボランティア・リーダー養成講習会

リーダーシップやコミュニケーション力を学ぶ

事例 3 その他の研修

スキルアップ研修や、啓発のためのシンポジウムなど

事例

1 スポーツボランティア研修会

スポーツボランティア活動を行う上で、スポーツボランティアの定義や具体的な活動内容などスポーツボランティアの基礎を学び、活動の意義ややりがい、楽しみ方を伝える研修は重要です。

主な研修内容
(例)



- 1 スポーツボランティアについて
 - スポーツ及びボランティアの定義
 - スポーツボランティアの統計
 - 様々なスポーツボランティアの活動紹介
- 2 コミュニケーションスキルについて
 - アイスブレイク、グループワーク 等

所要時間

半日
(約2~3時間)



事例

2

スポーツボランティア・リーダー養成講習会

スポーツボランティア・リーダーとは、主催者の意図を理解し、ボランティアに対して的確な指示を行うなど、ボランティアとイベント主催者との「懸け橋」のような存在です。

また、イベントをスムーズに運営するためにも、ボランティアの能力や、やる気を引き出すなど、リーダーシップやコミュニケーション能力が必要となります。

スポーツボランティア・リーダーの心得

5か条

リーダーとして活動するためには、心構えを含めた事前の準備が大切です。

- 1 イベント全体の概要を理解する
- 2 担当する活動の内容を把握する
- 3 活動のスケジュールを確認する
- 4 自らに課せられた役割や責任を自覚する
- 5 安全に活動するための活動場所を把握する



主な講習内容 (例)

- ① ボランティア・リーダーについて
 - ボランティアにおける立場の認識
 - リーダーの役割・心得・やりがい・責任
- ② 理論
 - スポーツ政策の方向性
 - 求められるリーダーシップとは
 - リーダーのためのリーダーシップ論 等
- ③ コミュニケーションスキルについて
 - アイスブレイクの理論と実践 等

所要時間

1日
(約5.5時間)

事例

3

スキルアップ研修やシンポジウムなど

ボランティア活動の意義や楽しさを広く啓発するためには、スポーツボランティア・セミナーやスキルアップ研修などを定期的に行うことが大切です。

例 シンポジウム

スポーツボランティア・シンポジウム

基調講演:「我が国のスポーツボランティアの現状と課題」

パネルディスカッション:「〇〇市のスポーツボランティアの可能性を探る」

グループワーク:「スポーツイベントを成功させるためにできること」 等

例 セミナー

若者が集うスポーツボランティア・セミナー

講演:①スポーツボランティア概論～入門編～

②コミュニケーションワーク

③スポーツボランティアネットワークについて

活動報告:トップスポーツチームのボランティア担当者からの活動報告

募集情報:地域のスポーツボランティア組織・団体からのボランティア募集情報 等

例 スキルアップ研修

コミュニケーションスキル向上研修

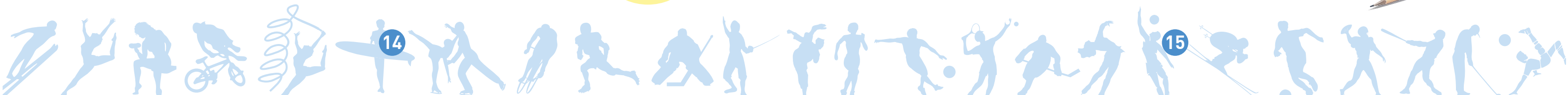
スポーツ現場における救急救命講習

視覚障害者ランナーとともに走る伴走教室

車椅子体験研修、接遇マナー研修 等

MEMO

NPO法人日本スポーツボランティアネットワークは、広く一般を対象に、ボランティアやボランティア・リーダーの養成、スポーツボランティアサミットやシンポジウム、フォーラムなどを開催しています。ウェブサイト(<http://www.jsvn.or.jp/>)参照。



4 ボランティア活動時にポイントカードや活動手帳を活用する

年に複数回の活動がある場合、ボランティアの活動を記録する「ボランティアポイントカード」や「スポーツボランティア手帳」などを配布し、活動の継続参加に活用している例があります。

■山口県スポーツボランティア手帳

山口県と山口県体育協会が発行しているこの手帳は、登録したボランティアに配布されています。手帳の内容は、「活動日」「研修・大会名」「認定印」の活動記入欄のほか、顔写真を貼るスペースを設けた「スポーツボランティア登録証」、スポーツボランティアの定義や活動の留意点も書かれています。スタンプを押すことを楽しみに活動しているボランティアがいるほか、手帳を見た人が活動に興味を持ちボランティア登録をすることもあります。



山口県スポーツボランティア手帳

■ボランティアポイントカード

川崎フロンターレで活動するボランティアに配布されているもので、活動の内容や回数に応じてポイントが付与されます。例えば、ホームゲームでの活動は2ポイント、通常より早い集合や雨天時などはプラス1ポイント、遅刻・早退はマイナス1ポイントなどです。年間の活動ポイントが一定以上になると、監督や選手が参加する「ボランティア納会」に参加することができます。



川崎フロンターレ
ボランティアポイントカード

STEP 2 ボランティアを組織化し、活動機会の提供を

スポーツイベントの終了後に、ボランティアの組織化が図られている例があります。都道府県でスポーツボランティアの登録制度があるのは13府県、そのうち、イベントの開催をきっかけとしたものは以下の9府県です。ただし、活動の活発さには差が見られるため、どのように運営していくかが今後の課題です。

組織が活性化すれば主催者・ボランティア双方にメリットがあることも事実です。

- 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会のボランティアを組織化
大阪府(1999年)、山口県(2002年)、神奈川県(2003年)、埼玉県(2008年)
- 日本スポーツマスターズのボランティアを組織化
福島県(2005年)、宮崎県(2009年)
- FIFAワールドカップ日韓大会のボランティアを組織化
宮城県(2003年)
- 県主催の市町村対抗ジュニア駅伝大会のボランティアを中心に組織化
和歌山県(2004年)
- 全国高等学校総合体育大会に向けてボランティアを組織化
佐賀県(2006年)

山口県スポーツボランティア

- 設立経緯：2011年開催「おいでませ! 山口国体・山口大会」に向けて2006年から組織化
- 登録者数：1,372人(2014年)
- 主な活動：県及び県内19市町で開催されるスポーツイベントの運営サポート
- 市の事例：山口県周南市の登録者数144人(2014年)
周南市体育協会担当の「我が町スポーツおもてなし事業」スポーツボランティアは、市の総合体育館で開催される、市体育協会加盟競技団体の全国・中国地区大会時に、会場案内、環境美化活動、市のPR活動をボランティアで実施



これからスポーツイベントを
開催しようと企画している主催者のために、
よくある質問をQ&Aにまとめました。

Q 初めてボランティアを募集するのですが、
どうすれば集まりますか？

A ウェブサイトやメール、募集チラシ、口コミも重要

ボランティアに求める活動内容によっても異なりますが、一般的にはイベント主催者のウェブサイトでの募集告知や、関連する組織・団体の会員などに対してメールで募集案内を送るなどの方法があります。しかし、ボランティア参加者で比率の高いシニア層には、この方法だけでは十分に告知できないため、市の広報誌での告知や募集チラシの配布（公共スポーツ施設や関連イベント時、自治会の回覧板等）、関係する皆さんの口コミも重要になります。

Q ボランティアに、
どんなことをお願いすればいいですか？

A 競技者や来場者と接点のある活動を

是非、競技者や参加者、観戦者、来場者などと、できる限り接点の持てる活動をお願いしてください。また、イベント運営（受付、コース誘導、記念品渡し等）のサポートはもちろんのこと、ボランティア運営（ボランティア受付、ボランティアウェアの配布等）のサポートもお願いしましょう。ただし、警備や金銭管理など、リスク（危険や大きな責任）を伴うものは原則として避けてください。

Q ボランティアに対し、
どんなことに気を付ければいい関係が作れますか？

A 対等の立場で、仲間として

ボランティアの経験や知識は様々ですが、基本は対等の立場で、目的や目標を共有する仲間として接してください。また、感謝は言葉に出して伝えてください。特に継続する活動であればあるほど、良い人間関係から無限の可能性が生まれます。

Q ボランティアは
報酬を目的としない活動とされていますが、
交通費程度は払った方がいいですか？

A 特に決まりはありません

ボランティア活動に対して、交通費や弁当代などの実費分程度を支給されている例はありますが、あくまでボランティアを受け入れる主催者側によるもので、特に決まりはありません。



～スポーツイベントを成功させるために～ イベント主催者は意識改革が必要です



イベント主催者が、
スポーツボランティアを募集し、共に活動する際には
ボランティアへの正しい理解と認識が必要になります。
ボランティアを「安い労働力」と考えるのは大きな誤りです。
ボランティアは、自身の時間や労力を提供して
イベントの成功に向けて共に活動してくれる
パートナーなのです。

敬意を払って

スポーツボランティアは、金銭の契約をしたアルバイトではありません。スポーツイベントを成功させる力になりたい、参加者をサポートしたい、来場者のおもてなしをしたいといった純粋な気持ちで自発的に参加する方々です。そのためボランティアに対して、適切な言葉使いや態度で接することが大切です。

感謝の気持ち

ボランティアはそのイベントの趣旨に賛同し、自身の時間と労力を提供して参加している方々です。イベント主催者や周りの人は、ボランティアに対して、常に感謝の気持ちと、感謝を言葉にすることも忘れずに接することが大切です。

適した依頼

ボランティアにはそれぞれに適した活動を依頼しましょう。来場者などの問合せには対応できても、苦情には対応できない場合があります。また、金品の授受や危険を伴う活動は、ボランティアの活動としては適切ではありません。その他、募集時に告知した内容と異なる活動を依頼することも避けましょう。

やりがいと充実感

ボランティアにとって、充実した活動となれば、そのイベントを周囲の人たちに口コミしてくれる広報役となり、再びボランティアとしてその事業を支えてくれる存在になり得ます。イベント主催者は開催趣旨やイベントそのものの意義をボランティアに示し、やりがいのある活動であることを示すことも重要です。

声掛けとフォロー

ボランティア同士でのコミュニケーションが取れずに、一部のボランティアが孤立するケースがあります。それを避けるためには、主催者がボランティア経験者に対して、初心者ボランティアへの声掛けやフォローを促すなど、そんな配慮も必要です。

休憩や食事

ボランティアで参加している…といっても、長時間休みなく活動してもらうのはよくありません。ボランティア参加者に活動を楽しんでもらうため、また、体への負担を減らすためにもボランティアの休憩や食事に配慮し、適宜指示を出しましょう。

全てを明確に

活動内容や活動手順の説明や指示が不十分なのはトラブルの元です。それぞれのボランティアに担当してもらう活動内容や手順は、マニュアルや映像などでしっかり説明しておきましょう。また、質問があったときやトラブルの際の窓口が不明確なものも運営に支障を来します。当日の緊急連絡体制や、指示系統を明確にしておきましょう。ほかにも、イベントの内容やスケジュール、特に活動に必要な会場図などはきちんと作成し、ボランティアには活動前に確認してもらいましょう。

信頼のおけるイベント主催者であるための準備

ボランティアを募集する際、ボランティア募集の活動条件を明確にするほかに、以下の書類の準備があれば、ボランティア募集の告知依頼の際など他の組織からも信頼が得られるでしょう。

- イベント主催者の概要
- ボランティア配置一覧
- イベントの事業概要
- ボランティアマニュアル(当日のスケジュール、活動内容等)
- イベントの実施スケジュール
- 過去のボランティア関連資料(実績、マニュアル等)

保険への加入

イベント主催者側で、ボランティアも対象になる保険(行事参加者傷害保険、施設賠償責任保険など)に加入するようにしましょう。また、加入の状況をボランティア募集のチラシ等に明記することをお勧めします。

個人情報の取扱い

個人情報の取扱いに関しても、ボランティアの募集チラシ等に必ず明記し、取扱いには十分に注意しましょう。



ボランティアは誰にでもできる活動です。`参加してみたいな、と少しでも思ったら、まずは一歩踏み出す勇気を。そこで、ボランティアとして参加する人のためによくある質問をQ&Aにまとめました。

Q 40代の主婦です。スポーツボランティアに興味があるのですが、スポーツが得意じゃなくても参加できますか？

A 大丈夫です。参加できます。スポーツボランティアは、スポーツを「する」「見る」が得意でない人も、楽しんで活動することができます。また、活動していくうちに、様々なスポーツと出会い、スポーツに関する知識も増え、活動が一層楽しくなります。

Q 15歳の高校生です。成人していなくても参加できますか？

A 参加できますが、年齢制限を設けている場合もあります。年齢制限がないイベントもありますが、「15歳以上(中学生は保護者の承諾必要)」や「高校生以上(未成年は保護者の同意必要)」などの条件を提示している例もあります。参加してみたいスポーツイベントが具体的にある場合は主催者のウェブサイトなどで確認しましょう。

Q ルールやマナーなどがあれば知りたいのですが。

A `手伝ってあげている、という意識はダメです。

参加すると決めたら、責任を持って基本的なマナーを守り活動しましょう。具体的には、突然のキャンセルをしない、遅刻をしない、説明をしっかりと聞く、といった日常生活に通じる当たり前の行動から、参加者に対しては丁寧にこやかに接する、トイレの場所やイベントのタイムスケジュールなど最低限の情報収集をしておくことも大切です。ほか、ボランティア同士では挨拶や声掛け、活動内容の確認、情報の共有などが必要となります。

Q 服装などで注意点は？

A 荷物は最小限に。

荷物置場がない場合もあるので、身に付けて活動できるよう荷物は最小限にします。活動時は、両手が自由に使えるように、カバンは背負うか腰に巻くタイプの物を使い、スタッフウェアの下に着けるようにします。

Q 雨や雪など荒天時の活動で知っておくと便利なことは？

A 防水・防寒対策をしっかりと。

傘を差して活動することができないため、レインコートやスタッフウェアの下に着用し(防寒着も同様)活動します。財布や手帳、スマートフォン、携帯電話などの貴重品は、耐水性の高いビニール袋(フリーザーバッグなど)に入れてからカバンに入れると水濡れを防止できます。

Q ボランティア活動の魅力を教えてください。

A 参加することで元気になれる場です。

ボランティア活動をしていると、イベント参加者から「ありがとう」と言われる機会が多々あります。それも何百、何千の人から。自分は参加者を応援し、参加者からお礼を言われる…単純なことですが、非日常的な体験であり、また、年齢や立場を越えて、普段は接することがないような人との出会いや地域貢献など、そこには体験してみないと分からない楽しさや喜びがあります。

スポーツボランティアの心構え

- 自発的に活動しよう
- 活動を継続させよう
- 責任を持って行動しよう
- ルールやマナーを守ろう
- スキルアップを心掛けよう
- スポーツボランティアを楽しもう

持参品チェックリスト

- 活動マニュアル
- 筆記用具
- メモ用紙
- ポケットティッシュ
- タオル(冬はマフラー代わりに)
- 飲食物(水分補給と軽食)
- 雨具(活動時はレインコートがおすすめ)
- 帽子
- 軍手(作業時や防寒対策にも)



From イベント主催者

- ボランティアを募集する側として、「楽しい」活動ができるように心掛けています。

〈総合型地域スポーツクラブ スポーツ・レクリエーション倶楽部くせ 事務局スタッフ〉

- スポーツイベントのボランティアは、イベントを支えるだけでなく、共にイベントを創る！ 支え合う仲間だということを、多くの人に理解し、感じてもらいたい。

〈市民スポーツボランティア SV2004 代表〉

- 常に、ボランティアのモチベーションをどうしたら維持できるか、気持ち良く活動していただけるかを考えながら運営しています。

〈東京マラソン財団 ボランティアセンター長〉

- ボランティアは金銭的な対価のない中で活動してくれているにもかかわらず、活動のモチベーションが高く、ほぼ運営スタッフです。クラブスタッフも日頃から感謝の気持ちで接しています。

〈川崎フロンターレ ボランティア担当〉

- スポーツイベントのボランティアは、おそろいのウェアとキャップを身に着けて活動している印象がありますが、地域のマラソン大会では、給水ポイントで高齢の女性がかっぽう着姿で、地元の料理を参加者にもてなしてくれることがあります。スポーツイベントのボランティアは、たくさんの方が、地域にあった形で関われる活動の一つです。

〈NPO法人日本スポーツボランティアネットワーク 講師〉



From ボランティア

- スポーツボランティアにとって、そのイベントを開催する上で自身が大切な役割を担っていると覚えることが重要です。その経験が継続的なスポーツボランティア活動につながっていくと感じています。

〈50代、男性〉

- 60歳になったら仕事を辞めて、地域に貢献しようと思っていました。55歳のときに地域のイベントでスポーツボランティアと出会い、今では年20回以上活動しています。

〈70歳、男性〉

- 地域の小規模なスポーツイベントでのボランティア募集があれば、随時案内が欲しいと思います。

〈50代、女性〉

- スキルアップのため研修会に参加したいのですが、近県での開催もないため、受講の機会を探しています。

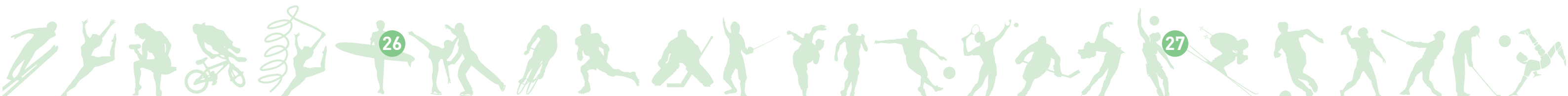
〈40代、男性〉

- 最初にスポーツボランティアに申し込むのは勇気のいることでした。活動に参加してみたら周りの人たちがとても優しく、楽しく活動することができました。スポーツボランティアはみんな、何のためにやっているのだろうと最初は思っていました。でも、活動してみると、とても分かる気がしました。こんなにたくさんの人と交流することは簡単なことではないが、スポーツボランティアの活動がそれを可能にしてくれました。今後も是非この活動を続けていきたいと思えます。

〈中学3年、男子〉

- 県内で開催される各競技団体の大会にもボランティアとして関わってみたいと思っていますが、ボランティア募集がなく、残念です。

〈60代、男性〉



【参考文献】

- NPO法人日本スポーツボランティアネットワーク(2014)「スポーツボランティア研修会テキスト」
- 笹川スポーツ財団(2006)「スポーツボランティア・リーダー活動履歴ファイル」
- 笹川スポーツ財団(2014)「文部科学省委託調査:スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究(スポーツにおけるボランティア活動を実施する個人に関する調査研究)報告書」
- 笹川スポーツ財団(2014)「文部科学省委託調査:スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究(スポーツにおけるボランティア活動を担う組織・団体活性化のための実践研究)報告書」
- 笹川スポーツ財団・山口泰雄(2012)「スポーツボランティア団体の活動に関する調査」
- 鹿屋体育大学・学生スポーツボランティア支援室(2012)「学生スポーツボランティア指導者ガイドブック」



スポーツボランティア・運営ガイドブック

～スポーツイベントのボランティアを知る～

発行 2015年3月31日

著作権者 文部科学省 スポーツ・青少年局 スポーツ振興課

〈問合せ先〉

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL 03-5253-4111(代表)

発行元 公益財団法人 笹川スポーツ財団

〒107-6011 東京都港区赤坂1-12-32

TEL 03-5545-3301

本ガイドブックは、文部科学省の委託事業として、公益財団法人笹川スポーツ財団が実施した平成26年度「スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究(スポーツにおけるボランティア活動を実施する個人に関する調査研究)」の成果をとりまとめたものです。したがって、本ガイドブックの複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。